

平成29年度第2回青梅市協働事業市民推進委員会議事録

平成29年7月27日

教育委員会会議室

出席委員10人

1 委嘱状交付

榎戸部長より交付

2 部長あいさつ

榎戸部長

川崎委員長

3 報告事項

(1) 平成29年度市民提案協働事業審査結果について

事務局より報告

委員：「おそきDEプチ田舎暮らし体験 田植え体験」の参加者の年齢は40代と子どもが多かった。周知はチラシ、新聞、多摩地域のイベントサイトに掲載をしたため、市内外の方の参加も多くあった。この事業の目的は小曾木地区に移住者を増やすことである。

委員：森林資源の魅力発信事業のなりきむらのあそびのもりの集合場所にある成木の家は民間が行っているものか？

委員：民間の場所である。トレイルラン、山林で活動する団体などの休憩場所になっている。誰でも使用できる場所となっている。

(2) 平成28年度協働事業の評価について

事務局より報告

委員：第八支会ふれあいフェスティバルは、平成28年度に開始をした。今までは利用団体のみの作品を展示していたが、地域の小中学校、保育園、ボランティア団体、障がい者団体が参加して開催をした。第6支会は地域の学校との連携を求めている。また、当日は中学生ボランティアが参加し、パネル設置、野菜の販売を行ってもらった。平成28年度は東京都の助成金を活用した。資金確保をどのようにしていくのが課題である。

委員：はじめて実施する事業は、パワーが必要である。

委員長：自治会と行政（市民センター）は連携できているのか。

委員：連携し実施している。

委員長：本日お渡しした協働評価シートをご覧いただき、次回委員会で、①改善の余地があると思われるもの、②評価シートの項目・内容について、③一覧に載っていないが、協働で実施することができると思われることなどについて、ご意見をいただきたい。

委員：報告の中で、「課題として実行委員会等の形態については、協働（協力）団体の減少により、負担が大きくなるなどの理由から、事業を実施、継続していくためにも協働（協力）団体を増やしていく必要がある。」とあったが、団体の減少の理由は。

事務局：団体からの意見である。

委員：会員の高齢化の話聞く。新規の団体を増やすのか、学校、企業など協働できる団体を探していくのがいいのか。いろいろな参加ができる形にしていくのがいいのか。

#### 4 その他

委員長：新しい委員の方もいるので、今までの協働事業市民推進委員会で意見がでたものを報告したい。

- ・ボランティア・市民活動センターの充実
- ・自治会加入を促進する取組
- ・市で行っている協働事業の充実
- ・市民活動団体と協働推進員の交流の機会
- ・協働事業市民推進委員会と協働事業推進会議との意見交換

委員：市民センターで事務局となっている団体は、協働事業としてどこで線引きするのか。

委員長：市民センターは、いくつ事務局をもっているのか。

事務局：多くある。例えば消防団は非常勤の公務員であるなど、ケースバイケースとなる。

事務局：昨年、自治会連合会と協定を締結したので来年に評価シートを提出してもらう予定である。

委員：自治会の加入率が下がっている。栃木県の黒磯市が視察きて懇談会を2時間程度行った。自論であるが地域コミュニティは学校との交流が大事であると考えている。

委員長：自治会と学校との協働を大事にしていきたい。

委員：自治会で50周年記念誌を作成した。その中で地域の歴史についても掲載した。今度、中学校と小学校へ出前講座に行く。

委員長：市民団体の高齢化はどうか。

委員：現在、活発に活動している団体が、会員の高齢化などで悩んでいる団体に関わっていき、コーディネートしていくことができればいいのか。

委員長：コーディネートは、ボランティア・市民活動センターの役割ではないか。

委員：団体が市役所の窓口に行ったときに、各課の協働事業推進員がわからない。協働事業推進員と交流できる機会があればいいのでは。

事務局：協働事業推進員は、所属課において協働の普及を行い、協働を進めていくことを行う。

委員：研修会か懇談会で行うのか、工夫が必要である。

委員長：市民活動団体も学ばなくてはいけない。

委員：お互いが対等であることを学ばなければいけない。

事務局：協働事業推進員は、協働とは何か認識することからはじめる。

委員長：団体と行政をつなぐ役割は、ボランティア・市民活動センターが中間支援組織となる。

委員：若い人に協働の勉強会に参加をしてほしい。

委員：すでに活動をしている団体に若者を入れるのか。若者の団体を立ち上げるのがいいのか。

委員：自分が参加していたサークルでは、新しい会員に教えていき、その人が指導者になっていた。技術を伝える必要はある。

委員：技術を新しい人に伝えるには、長い期間かかる。

委員：ボランティアへ参加してもらうには弁当、交通費を支給するなど経済的な問題もあるのか。活動の内容によるので簡単にはできない。

委員：何か支給されれば変わるのかと言われてれば変わるとは思わない。

委員：地域と関わるきっかけは、子ども会に入ることと考えられたが、地域と関わらなくても生活が成り立っている。自分が知らない場所に行き、知らない人と関わるのが難しくなった。

委員長：この委員会で、何か実現していけたらいい。